

平成25年度 事業報告書

公益財団法人日本ハンドボール協会

1. 普及指導に関する事業

1) 普及関係

(1)少年チーム活性化推進ブロック会議

中国	: 6月29日(土)岡山県真庭市	北海道	: 6月29日(土)函館市
四国	: 8月24日(土)愛媛県松山市	近畿	: 8月24日(土)大阪府堺市
東海	: 8月25日(日)岐阜県各務原市	北信越	: 10月12日(土)富山県氷見市
東北	: 12月7日(土)宮城県大崎市	九州	: 12月21日(土)福岡県福岡市
関東	: 3月21日(金)群馬県富岡市		

・少年チーム活性化の方策についての情報交換

(2)小学生専門委員会

第1回小学生専門委員会 5月12日(日)日本協会事務局

(ア)第26回全国小学生大会について

(イ)J級指導者養成講習会について

(ウ)ブロック委員会の開催について： 会議の形態、持ち方について

(エ)U-12ゲーム様式について・各種調査について

(オ)(公財)大崎スポーツ事業研究助成財団補助による事業展開について

i)企業チーム地域活動への援助

ii)地域活性化推進ブロック委員会について

第2回小学生専門委員会 8月1日(木)京都府京田辺市

(ア)小学生のゲーム様式について

(イ)ブロック活動状況報告(大会、交流会、指導員養成等々)

(ウ)日韓小学生交流会について

(エ)ブロック委員会の開催について

(3)中学生専門委員会

第1回中学生専門委員会 8月19日(月)愛知県豊田市

(ア)各ブロック状況報告

(イ)第22回JOC大会について

(ウ)第9回春の全国中学生ハンドボール選手権大会について

(エ)中学生クラブチームの活動について

第2回中学生専門委員会 12月22日(日)福島県福島市

(ア)各ブロック状況報告

(イ)第22回大会の大会運営について(福島県)

(ウ)中学生の使用球について

(4)小学生指導要領対策

文部科学省訪問 4月19日(金)文部科学省スポーツ・青少年局

第1回学校体育検討専門委員会 4月19日(金)日本協会事務局

(ア)第16回研究集会実施案検討：講師依頼(文部科学省調査官等)

(イ)授業実践者の選出について

(ウ)授業手引書の作成について

小委員会(打ち合わせ) 7月28日(日)東急インホテル

研究集会(授業研究検討)7月29日(月)・30日(火)

愛媛県松山市青少年センター、松山市たちばな小学校(参加者70名)

(ア)授業発表

(イ)実技研修と講義

(5)ビーチハンドボール専門委員会

第4回アジアビーチゲームズ(2014)日本代表選手選考会

期日 8月3日(土)・4日(日) 千葉県南房総市富浦海岸
選考者 大原ビーチ委員長、氷海強化部長、仲田審判運営委員長
第15回全日本ビーチハンドボール選手権大会兼2014年アジアビーチゲームズ日本代表選手選考会

期日 8月24日(土)～25日(日) 兵庫県神戸市アジュール舞子
結果 男子1位 東海Weed's 女子1位 日本体育大学
平成25年度ビーチハンドボール委員会

期日 8月24日(土) 兵庫県神戸市グリーンヒルホテル
出席者 角常務理事、大原ビーチ委員長、千葉副委員長、後藤副委員長、氷海強化部長、丸茂総務部長、辻女子強化委員、沖本東海普及委員、若水関西普及委員、高祖会計委員

- ・第4回アジアビーチゲームズ(2014タイ・プーケット)本代表選手選考委員会(1月中旬頃開催予定)
- ・平成26年度の国内、海外大会日程が確定後、代表選手(男子10名、女子10名)の決定を行う

平成25年度ビーチハンドボール講習会

期日 8月23日(金) 兵庫県神戸市アジュール舞子
講師 大原 康昇 ビーチ委員長

日本代表女子候補選手強化合宿

期日 8月22日(木)、23日(金) 兵庫県神戸市アジュール舞子
各地での大会

- ・第2回 BEACH CORAZON
開催日 6月16日(日) 沖縄県名護市
- ・第3回東海ビーチハンドフェスタ
開催日 6月22日(土)、23日(日)場所 愛知県南知多町千鳥ヶ浜海水浴場
- ・第14回東北大会
開催日 7月28日(日) 青森県野辺地市
- ・第17回ビーチハンドフェスタ富浦さざ波大会
開催日 8月3日(土)、4日(日) 千葉県南房総市富浦町原岡海岸
- ・第3回ビーチハンドフェスタ in Aoshima
開催日 9月15日(日)、16日(月) 宮崎県宮崎市こどもの国

(6)マスターズ専門委員会

第1回中央委員会 4月7日(日) 愛知県名古屋市長原市ブラザー体育館

(ア)第21回大会要項検討

(イ)第20回記念誌原稿検討

第21回全日本ハンドボールマスターズ大会 8月2日(金)～8月4日(日)

岩手県花巻市総合体育館他

参加チーム 男子38 ・女子13 ・11人制6 合計57チーム

第2回マスターズ専門委員会 3月2日(日)12:30～15:00 山梨県甲州市塩山体育館

(ア)平成25年度第21回全日本マスターズ 大会報告

(イ)大会20年記念記録誌配布について

(ウ)各ブロック報告

各地区の活動

(ア)東海：第7回東海マスターズ 10月26日(土)静岡県掛川市エコパアリーナ 24チーム

(イ)東北：第11回東北マスターズ 11月30日(土)、12月1日(日)福島県福島市国体記念体育館 150名

(ウ)北海道：札幌シニア交流会 12月7日(土) 3チーム

- (エ)関東：横浜マスターズ 11月2日(土)神奈川県横浜市横浜国際プール 320名参加
東京マスターズ 1月12日(土)、13日(日)東京都八王子市東京高専体育館
第7回塩山マスターズ 3月1日(土)、2日(日)山梨県甲州市塩山体育館
- (オ)九州：第17回九州マスターズ 2月16日(日)福岡県久留米市総合スポーツセンター
- (カ)近畿：第11回近畿マスターズ 3月21日(金)大阪府堺市家原大池体育館 18チーム
第22回沖縄大会について 開催予定日：平成26年8月1日(金)～3日(日)
- (ア)11人制大会について：17時から開催
- (イ)その他

a マスターズのようなハンドボールを楽しむレクリエーション型大会ではチャンピオンシップ大会と同様の厳密な登録が必要かどうかの質問があった。

b ブロックマスターズ等ローカル大会は今後のマスターズの重点課題であるからその意義を十分に理解し、登録がそれらの普及発展の妨げになってはならない。

(7)女性委員会

2月6日(木)、7日(金)「平成25年度生涯スポーツ・体力づくり全国会議」(文科省主催)にシンポジストとして参加、スポーツコーチングに関するディスカッションおよび情報収集。

2月28日(金)「大学体育連合フォーラム」

研究発表者として参加、ハンドボール経験のある大学教員との連携作り。

3月17日(月)「平成25年度JOC女性スポーツフォーラム」に参加(JOC主催)。

各競技団体における女性理事、役職者の果たす役割などに関する情報交換、ハンドボールは極めて遅れをとっている模様。どこの団体も女性の役割に関しては明確な役割やビジョンはない。

その他：これまでの女性委員会が実施していたアンケートの結果と上記の情報などを踏まえ、女性指導者の数および審判資格などの情報を整理し、役割や今後の課題について検討内容を精査する予定。

2) 指導関係

(1)日体協公認スポーツ指導員養成実施都県

山梨県、長野県、福井県、愛知県、徳島県、熊本県、宮崎県

(2)日本体育協会公認コーチ養成講習会 6月18日(火)～23日(日) 25名受講

(3)コーチレフェリーシンポジウム (駒沢) 3月8日(土)、9日(日) 72名参加

世界のハンドボールの状況・日本の戦術パネルディスカッション

(4)都道府県協会指導委員選出・委員会組織の再整備

(5)全国指導委員会 5月25日(土)、26日(日) 於：ANTC

・各県指導委員とNTSとの関わりについて

・各ブロック・県の指導委員との連携

・義務研修およびシンポジウム内容の検討

(6)全国競技別講師研修会 5月25日(土)、26日(日) 於：ANTC

参加者 33名受講

(7)全国 U-12 指導者講習 8月1日(木)京田辺市総合体育館 87名参加

・U-12 ゲーム様式について

(8)第1回全国 U-12 指導者研修会 11月23日(土)、24日(日) 42名参加

講演「ジュニア指導の重要性について」・実技研修

3) 競技者育成技術委員会

(1)競技者育成技術委員会会議

第1回 6月16日(日)技術委員会のあり方、各部門実施計画

第2回9月21日(土)2020東京オリンピックとそれ以降に向けた強化と技術委員会の役割
第3回3月1日(土)技術委員会のあり方、今後の方針

(2)各種作業部会実施状況

NTS 指導内容策定委員会:平成 25 年度をもって 3 年計画終了

田口 NTS 委員長案に継承

U12 ゲーム形式検討委員会:模擬試合で検討、全国小学生大会前にデモンストレーション

2. 競技運営に関する事業

1) 主要大会の管理・運営 (斜体は国際大会)

月	大会名	開催日程	開催地	結果
7月	高松宮記念杯第3回全日本社会人選手権	7/3-7	初光バレー 周南総合体育センター	男子 1:大同特殊鋼 2:大崎電気 3:豊田合成 女子 1:松下 2:北國銀行 3:広島メイプルズ
	第33回全国クラブ選手権西地区	7/6,7	霧島市国分体育館他	男子 1:FHC 2:SFIDA 山口 3:総社クラブ 女子 1:徳山クラブ 2:熊本クラブ 3:うとみクラブ
	第33回全国クラブ選手権中地区	7/20,21	舞洲アリーナ	男子 1:八光自動車 2:HC新潟 3:SOCIO、DBC 女子 1:富山エンジェルス 2:御座候 3:五ツ星、GET'S
	第33回全国クラブ選手権東地区	7/20,21	本宮市総合体育館他	男子 1:渡辺組 2:学石クラブ 3:蓮田クラブ 女子 1:サトウ HC 2:ガビアーノクラブ 3:やんちゃクラブ
	第18回ワールド国際大会	7/26-28	広島市・東区 SC	男子 1:日本 2:湧永製薬 3:ガブラス 女子 1:日本 2:広島メイプルズ 3:江蘇省 4:ガブラス
	高松宮記念杯第64回全日本高校選手権大会	7/30-8/4	神埼中央公園体育館他	男子 1:興南 2:愛知 3:藤代紫水、北陸 女子 1:高松商業 2:四天王寺 3:大分、洛北
8月	第26回全国小学生大会	8/1-4	京田辺市田辺中央体育館他	男子 1:東海 HBS 2:神森小 3:玉名小、香川柳ノブくん 女子 1:玉名小 2:三松小 3:薪小、日岡少
	第21回全日本マスターズ大会	8/2-4	花巻市総合体育館他	男子 1:GHBP ARES 2:オールドフェイス 3:GG北海道 女子 1:御座姐 2:NEWフェイス 3:岩手三花、かよちゃんず
	第18回ジャパンオープンナショナル長崎国体県大会	8/11-14	佐世保市東部体育広場体育館他	男子 1:長崎社中 2:HONDA 3:HC岐阜 女子 1:香川銀行 T・H 2:ナデシコクラブ 3:HC和歌山
	第40回全国高等専門学校選手権大会	8/17,18	十和田市総合体育センター	1:徳山高専 2:函館高専 3:大阪府大高専、石川高専
	第42回全国中学校大会	8/20-23	スポーツランド豊田	男子 1:神森中 2:西條中 3:岐陽中、滝ノ水中 女子 1:西中原中 2:平田中 3:大住中、平針中
	第15回全日本ビーチバレー選手権大会	8/24,25	神戸アジュール舞子浜	男子 1:東海 Weed's 2:HC大阪 3:ポニーエース 女子 1:日体大 2:SHINE 3:風見鶏クラブ
	第38回日本リーグ・レギュレーション	8/30-2/23	各地	男子 1:トヨタ車体 2:大崎電気 3:大同特殊鋼 4:湧永製薬 女子 1:松下 2:広島メイプルズ 3:北國銀行 4:ソニーセミコンダクタ
10月	第68回国民体育大会	10/3-7	墨田区総合体育館他	成年男子 1:埼玉県 2:愛知県 3:広島県 4:宮城県 成年女子 1:石川県 2:熊本県 3:鹿児島県 4:広島県 少年男子 1:岩手県 2:香川県 3:山口県 4:茨城県 少年女子 1:香川県 2:大分県 3:東京都 4:埼玉県

11月	高松宮記念杯男子第 56 回女子第 49 回全日本学生選手権大会	11/23-27	小瀬スポーツ公園体育館他	男子 1;早稲田 2;中京大 3;大体大、日体大 女子 1;大体大 2;東女体 3;東海大、中京大
12月	第 22 回 JOC ジュニアオリンピックカップ	12/23-26	県営あづま総合体育館他	男子 1;茨城県 2;大分県 3;鹿児島県、沖縄県 女子 1;愛知県 2; 山口県 3;東京都、茨城県
	第 65 回全日本総合選手権大会	12/24-28	愛知県体育館他	男子 1;大崎電気 2;大同特殊鋼 3; 湧永製薬、トヨタ車体 女子 1;私大 2; 北國銀行 3;ユニセコングク、広島メイプル
2月	全日本社会人チャレンジ 2014	2/14-16	サンプラザ 周南総合スポーツセンター	男子 1;長崎社中 2;HC 和歌山 3;HC 岐阜
3月	第 38 回日本リーグプレーオフ	3/8,9	駒沢体育館	男子 1;大同特殊鋼 2;トヨタ車体 3;大崎電気、湧永製薬 女子 1;私大 2;北國銀行 3;広島メイプル 4;ユニセコングク
	第 9 回春の全国中学生選手権大会	3/25-29	氷見市ふれあいスポーツセンター他	男子 1;平田中 2;西條中 3;戸塚中、東久留米西中 女子 1;平田中 2;東久留米西中 3;若松中、港川中
	第 37 回全国高等学校選抜大会	3/25-30	スポーツランド豊田他	男子 1;興南 2;春日丘 3;横浜創学館、法政大二 女子 1;佼成女子 2;愛知商業 3;四天王寺、氷見

2) その他の事業

- (1)日本協会主催、共催大会の管理運営にあたった
- (2)平成 25 年度テクニカルデレゲートの任務他各種通達で周知した
- (3)平成 25 年度チーム・選手・チーム役員登録業務を遂行した
- (4)日本選手権構想の具体的日程等計画案を示した
- (5)ジャパンオープン他全国大会を利用して競技役員の業務運営の周知を図った
- (6)競技運営連絡協議会(東京)を開催した
- (7)国民体育大会正規視察(茨城県)を実施した
- (8)全国高等学校選抜大会移行の検討を行った
- (9)春の中学生大会の第 11 回以降の開催についての検討を行った

3 . 国際に関する事業

1) 日本代表チーム派遣及び国際会議に関する事業

日程	カテゴリー / 参加者	大会名称	開催地
4月	男女リーグ代表チーム	第 10 回東アジアクラブ選手権	韓国・亀尾市
	役員	EAHF 会議	韓国・亀尾市
5月	TD/仲田	第 4 回ビッチハンドボールアジア選手権	香港
	男女代表	日韓定期戦	韓国・ソウル
	男女 U-22 審判員/田淵・河合	第 1 回東アジア U-22 選手権	韓国・天安市
6月	女子 U-20	第 12 回女子ジュニアアジア選手権	カザフスタン・アルマトイ
	女子 U-16	日韓スポーツ交流(派遣)	韓国・ギョンナム
7月	審判員/池淵・檜崎	第 19 回男子ジュニア世界選手権	ボスニアヘルツゴビナ
	男女代表 審判員/太田・島尻、 白井・佐々木、大熨・ 山本	第 18 回ヒロシマ国際	日本・広島

	男子代表	欧州遠征	フランス、ポルトガル
	女子代表	欧州遠征	ドイツ、デンマーク
8月	男子 U-19	第 5 回男子ユース世界選手権	ハンガリー・ブダオロス
	TD/仲田 審判員/池淵・檜崎	第 2 回アジアユースゲームズ	中国・南京市
	男子 U-16	日韓スポーツ交流(派遣)	韓国・大田市
	女子ユース	第 5 回女子ユースアジア選手権	タイ・バンコク
9月	男子 U-16	日韓スポーツ交流(受入)	日本・東京
	女子 U-16	日韓スポーツ交流(受入)	日本・愛知県
10月	役員	第 19 回 AHF 総会・理事会	カタール・ドーハ
	役員	第 34 回 IHF 総会・理事会	カタール・ドーハ
11月	TD/仲田、富田 審判員/本田・田淵	第 16 回アジアクラブリーグ選手権	カタール・ドーハ
	女子代表	第 14 回女子アジア選手権	セルビア・ベオグラード
1月	男子代表 審判員/池淵・檜崎 TD/後藤	第 16 回男子アジア選手権	バーレーン・マナーマ
	仲田 AHF/PRC 委員	AHF/PRC ミーティング	バーレーン・マナーマ

以上の行事への参加申請手続き・参加費等の精算・渡航手続きなど事務全般

2) 国際会議等ならびに派遣に関する事業

(1)IHF 関係

- ・ IHF 総会に、渡邊会長、市原副会長、橋本特任副会長、川上専務、蒲生常務、
ネメシュ・ローランド参事、稲福国際委員出席
- ・ IHF 理事に、渡邊会長がアジア連盟推薦理事として再任
- ・ IHF 理事会での議事内容翻訳
- ・ IHF に対しての諸連絡と加盟各国連盟との協力関係強化
- ・ 各種大会や役員・レフェリー派遣業務の連絡調整全般
- ・ 2019 女子世界選手権大会招致
エントリー、申請手続き、プレゼンテーションなど、計画的に実施
ピーアールのために IHF 事務局に JHA 幹部が出向いた。
ムスタファ会長を日本：熊本に招待した。
- * IHF に関する事務的なエントリーなど手続き・諸連絡

(2)AHF 関係

- ・ AHF 総会・理事会に渡邊会長、川上専務、蒲生常務、ネメシュ・ローランド参事出席
- ・ AHF 第 1 副会長に渡邊会長が再任、医事委員長に坂本参事が再任
- ・ AHF 各種委員会に関係委員出席
- ・ テクニカルデレゲートならびにレフェリー派遣実施
- ・ 各カテゴリーのアジア選手権参加のサポート
- * AHF に関する事務的なエントリーなど手続き・諸連絡
- * テクニカルデレゲート・審判・アンチドーピング委員派遣などに関する連絡
- * AHF 会議議題・議事録の翻訳

(3)EAHF 関係

- ・ 4 月 EAHF 会議(日本)
- * EAHF 会議議題・議事録の翻訳
- * EAHF に関する連絡

3) その他の事業

- (1)2020 東京オリンピック招致活動支援（祝電、礼状、お見舞い等）
- (2)ドイツ連盟との協力協定締結
- (3)文部科学省国際人養成プロジェクトに国際委員会から IHF・AHF に稲福委員を研修派遣
- (4)国際移籍等に関する連絡（移動証明書の発行など）
- (5)来訪諸国の来日対応（バングラデシュ、スリランカ）
- (6)翻訳業務
 - * 大会要綱の翻訳
 - * 海外大会情報の翻訳及び掲示

4. 競技規則（審判）に関する事業

1) 主たる事業（斜体は国際大会・会議）

月	事業名	開催日程	開催地	概要及び実績
4月	第10回東アジアクラブ選手権大会	4/4～9	韓国・亀尾市	レフェリー：大熨嘉彦・山本篤洋を派遣
	男子代表チームトレーニングマッチにおける実技研修	4/29	愛知県豊田市	受講者2名，指導者1名
5月	第4回ビーチハンドボールアジア選手権大会	5/5～16	香港	TD：仲田稔 AHF/PRC 委員を派遣
	第1回審査指導委員会	5/11,12	愛知県知立市他	参加者：委員8名，審判部長 A/B級審査会打合わせおよび審査基準の統一
	第1回競技規則研究委員会	5/25,26	岡山県岡山市	参加者：委員3名，審判部長 レフェリー研修会打合わせおよびレフェリーハンドブック作成準備
	第1回東アジアU-22選手権大会	5/29～6/5	韓国・天安市	レフェリー：田淵元雄・河合威廷を派遣
6月	B級公認審判員審査会〔関東地区〕	6/21～23	群馬県富岡市	受験者18名 審査担当6名を派遣
	第1回レフェリーアカデミー	6/28～30	東京都北区	スタッフ・講師5名，受講者7名
	全日本大会および日本リーグ担当レフェリー研修会	6/29,30	東京都北区	参加者：日本リーグレフェリー38名，全日本大会レフェリー68名，連盟・ブロック・都道府県審判長他39名
7月	A/B級公認審判員審査会〔西地区〕	7/5～7	鹿児島県始良市他	受験者A級17名・B級15名 審査担当6名を派遣
	男子ジュニア世界選手権大会	7/10～30	ポスニアヘルツェゴビナ	レフェリー：池淵智一・檜崎潔(IHF指名)を派遣
	A/B級公認審判員審査会〔東地区〕	7/19～21	福島県本宮市	受験者A級6名・B級10名 審査担当3名を派遣
	A/B級公認審判員審査会〔中地区〕	7/19～21	大阪府大阪市	受験者A級16名・B級14名 審査担当6名を派遣
	第18回ヒロシマ国際大会	7/26～28	広島県広島市	大会審判長：審判部長 レフェリー：太田智子・島尻真理子，白井健・佐々木皇介，大熨嘉彦・山本篤洋を派遣
	全国高校総体審判員評価	7/30,31	佐賀県神埼市他	審査指導委員1名を派遣
8月	韓国リーグとのレフェリー交流	8/5～10	韓国・ソウル	レフェリー：本田昭太・田淵元雄を派遣
	JHAレフェリーコース前期研修会〔審判部主管〕	8/12～14	滋賀県長浜市他	受講者4名，講師3名 講義ならびに実技研修を実施

	第2回アジアユースゲームズ	8/14～24	中国・南京市	TD：仲田稔 AHF/PRC 委員 レフェリー：池淵智一・檜崎潔(AHF 指名)を派遣
9月	第2回レフェリーアカデミー	9/7,8	東京都北区	受講者6名, スタッフ・講師名
	JHAレフェリーコース前期研修会 (関西学連主管)	9/21～23	京都府宇治市他	受講者6名, 講師3名 講義ならびに実技研修を実施
10月	第1回審判部会	10/12,13	東京都目黒区	参加者：競技本部長, 審判部長, 副部長, 審査指導委員長, 総務委員長
	第3回レフェリーアカデミー	10/18～20	福岡県宗像市	受講者5名, スタッフ・講師7名
11月	第16回アジアクラブリーグ	11/6～23	カタール・ドーハ	TD：仲田稔 AHF/PRC 委員 映像担当：富田拓 AHF/PPC 委員 レフェリー：本田昭太・田淵元雄(AHF 指名)を派遣 IHFレフェリーに認定された。
	チャレンジディビジョンにおける実技指導	11/30,12/1	埼玉県八潮市他	受講者8名, 指導者1名
12月	トップレフェリー研修会	12/26	愛知県名古屋	全日本総合選手権大会担当レフェリー
	第2回競技規則研究委員会	12/26～28	愛知県名古屋	参加者：委員4名, 審判部長
H26 1月	NTS センタートレーニング	1/6,13	東京都北区	両日とも2名のレフェリーを派遣
	第2回審判部会	1/12	東京都町田市	参加者：競技本部長, 審判部長, 副部長, 審査指導委員長, 競技規則研究委員長, 総務委員長
	第16回男子アジア選手権大会	1/22～2/8	バーレーン・マナーマ	TD：後藤登 AHF/COC 委員 レフェリー：池淵智一・檜崎潔(AHF 指名)を派遣
	第3回審判部会	1/24,25	東京都北区	参加者：競技本部長, 審判部長, 副部長, 審査指導委員長, 総務委員長
	平成25年度審判部合同会議	1/25,26	東京都北区	参加者：専務理事, 競技本部長, 審判部長・副部長, 各ブロックおよび連盟審判長, 審判部各専門委員会委員長 計23名 平成25年度活動の総括, 平成26年度活動方針他の検討。
2月	AHF/PRC ミーティング	2/3～7	バーレーン・マナーマ	仲田稔 AHF/PRC 委員を派遣
	社会人連盟レフェリーコース (B級審査会)	2/14,15	山口県周南市	受講者2名, 講師2名 講義ならびに競技規則筆記試験・実技試験を実施した結果, 2名をB級審判員に認定した。
	第4回レフェリーアカデミー	2/21～23	愛知県豊田市	受講者8名, スタッフ・講師3名
3月	第5回レフェリーアカデミー	3/7～9	東京都渋谷区他	受講者8名, スタッフ・講師2名
	JHAレフェリーコース後期研修会	3/14～16	京都府宇治市	受講者10名, 講師5名 講義ならびに実技研修・競技規則筆記試験を実施し, 前後期を総合判定して, 4名をB級審判員に認定した。6名は合否保留とし26年6～7月に再試験を行う。
	全国高校選抜大会審判員評価	3/24～28	愛知県豊田市他	審査指導委員1名を派遣

2) その他の事業

- (1)文書の発送受付など諸手続きならびに審判員登録期限厳守の徹底 (総務専門委員会)
- (2)レフェリー研修会用映像資料の作成 (視聴覚専門委員会)
- (3)各全日本大会における審判技術の実態把握 (審判部長・副部長, 審査指導専門委員会)

- (4)各全日本大会において競技規則筆記試験を実施（連盟審判長，ブロック審判長）
 (5)レフェリーハンドブックの企画および作成（競技規則研究専門委員会・国際専門委員会）
 (6)日本リーグ機構との連携強化（審判部長・副部長，日本リーグ審判専門委員会）

3) A/B級公認審判員審査結果

	平成 24 年度		平成 25 年度	
	A 級	B 級	A 級	B 級
審査申請者	34名	75名	43名	66名
書類不備	1名	1名	1名	2名
欠席	8名	7名	3名	7名
筆記試験不合格	1名	5名	3名	7名
実技試験不合格	8名	21名	7名	8名
体力試験不合格	0名		0名	
合格者	17名	35名	31名	43名

筆記・実技ともに不合格 A級1名

A級2名 B級1名

4) 公認審判員登録状況 ()内は女性

級	平成 24 年度	平成 25 年度
終身	125名 (0名)	101名 (0名)
国際	18名 (2名)	15名 (2名)
A 級	278名 (8名)	277名 (8名)
B 級	462名 (18名)	445名 (23名)
C 級	816名 (104名)	810名 (111名)
D 級	1279名 (254名)	1534名 (291名)
計	2978名 (386名)	3182名 (435名)

5. 競技力向上に関する事業

《 強化 》

1) 強化関連会議・施策など

8月28日(水) 強化スタッフ会議

9月24日(火) 強化委員会

11月23日(土) 拡大強化委員会

2月22日(土) 強化委員会

3月16日(日) 強化委員会

3月26日(水) 強化委員会

東京五輪への強化施策骨子を策定した。

海外強化拠点設立(デンマーク・フレホイスコーレ)、交渉を開始し継続中。

「女性競技種目戦略的強化プログラム」(文部科学省直轄事業)採用が決定し、進行中。

平成 26 年度強化スタッフを選定した。

平成 26 年度強化施策を策定した。

JOC にターゲットエイジ「育成・強化プロジェクト」の予算申請を提出した。

平成 25 年度下期「トップアスリート、ユースアスリート助成」の候補者を選定した。

2) 国際大会・国際交流親善試合

チーム名	大会名	日程	場所	結果
男女代表	日韓定期戦	5/28	韓国・ソウル	男子 JPN 24-29 KOR 女子 JPN 23-26 KOR
男女 U-22	第1回東U-22東アジア選手権	5/30-6/4	韓国・天安市	男子 1:韓体大 2:慶照大 3:JPN 4:TPE 5:CHN 6:MAC 女子 1:韓体大 2:JPN 3:CHN 4:TPE 5:HKG
女子 U-20	第12回女子ジュニアアジア選手権	6/23-29	カザフスタン・アルマトイ	1:KOR 2:JPN 3:CHN 4:KAZ 5:UZB
女子 U-16	第16回日韓スポーツ交流(派遣)	6/26-7/1	韓国・慶南	JPN 16 (7-8, 9-14) 22 KOR
男女代表	第18回ヒロシマ国際	7/26-28	日本・広島県	男子 1: JPN 2:湧永製菓 3: KAZ 女子 1: JPN 2: 広島メイプルズ 3: 江蘇省(CHN) 4:KAZ
男子 U-19	第5回男子ユース世界選手権	8/9-23	ハンガリー・ブタオロス、エールド	1:DEN 2:CRO 3:GER 4:ESP 5:NOR 6:SWE 7:SRB 8:SLO 9:BRA 10:HUN 11:ROU 12:BLR 13:FRA 14:EGY 15:QAT 16:AUT 17:JPN 18:ARG 19:TUN 20:VEN 21:KOR 22:ANG 23:GAB 24:CHI
男子 U-16	日韓スポーツ交流 2012 (派遣)	8/30-9/4	韓国・大田市	JPN 19 (10-10, 9-13) 23 KOR
男子 U-16	日韓スポーツ交流 2012(受入)	9/6-11	日本・東京都	JPN 46 (22-9, 24-10) 19 KOR
女子 U-18	第5回女子ユースアジア選手権	9/7-15	タイ・バンコク	1:KOR 2:JPN 3:KAZ 4:UZB 5:CHN 6:IRI
女子 U-16	第16回日韓スポーツ交流(受入)	10/10-15	日本・愛知県	JPN 23 (11-5, 12-12) 17 KOR
女子代表	第21回女子世界選手権	12/6-22	セルビア・ベオグラード、ニシュ、ズレニャニン、ノヴィ・サド	1:BRA 2:SRB 3:DEN 4:POL 5:NOR 6:FRA 7:GER 8:HUN 9:ESP 10:ROU 11:MNE 12:KOR 13:NED 14: JPN 15:CZE 16:ANG 17:TUN 18:CHN 19:ARG 20:COD 21:PAR 22:ALG 23:DOM 24:AUS
男子代表	第16回男子アジア選手権	1/25-2/6	バーレーン・マナーマ	1:QAT 2:BRN 3:IRI 4:UAE 5:KOR 6:KSA 7:KUW 8:OMA 9:JPN 10:IRQ 11:CHN 12:UZB

3) 海外強化合宿

チーム名	事業名	日程	場所	参加人数計(役員、選手)
男子代表	欧州遠征	7/29-8/20	フランス ポルトガル	20名(役員3名、選手17名)
女子代表	欧州遠征	7/29-8/11	ドイツ デンマーク	22名(役員4名、選手18名)

4) 国内強化合宿(男女代表)

チーム名	場所	日程	参加人数(役員・選手)	ドクター	トレーナー
男子代表	第1回 ANTC	4/20-4/26	21名(役員5名、選手16名)		飯田純一朗 浅井大

	第2回 ANTC	5/7-5/27	24名(役員7名、選手17名)		飯田純一郎 新井康希 大岡恒雄 渡辺哲史
	第3回 紋別	7/15-7/20	20名(役員4名、選手16名)		飯田純一郎
	第4回 ANTC	10/8-10/12	23名(役員5名、選手18名)		飯田純一郎
	第5回 ANTC	11/18-11/21	23名(役員5名、選手18名)		飯田純一郎
	第6回 ANTC	12/9-12/14	23名(役員5名、選手18名)		飯田純一郎
	第7回 ANTC	1/5-1/20	25名(役員5名、選手20名)		飯田純一郎
	女子代表	第1回 ANTC	4/5-4/12	29名(役員9名、選手20名)	
第2回 ANTC		5/13-5/27	28名(役員10名、選手18名)	永澤雷太	高野内俊也 佐野裕美
第3回 ANTC		7/13-7/24	31名(役員8名、選手23名)		高野内俊也 佐野裕美
第4回 ANTC		10/6-10/9	30名(役員8名、選手22名)	永澤雷太	高野内俊也
第5回 ANTC		11/12-11/29	27名(役員9名、選手18名)		高野内俊也 佐野裕美
第6回 ANTC		3/17-3/20	23名(役員6名、選手17名)	-	高野内俊也 佐野裕美

5) 国内強化合宿 (男女 under 代表)

チーム名	場 所	日 程	参加人数(役員・選手)	ドクター	トレーナー
男子 NA*	第1回 ANTC	5/24-5/29	20名(役員4名、選手16名)		
男子 U-21	第1回 ANTC	2/21-2/27	32名(役員8名、選手24名)		島俊也
男子 U-19	第1回 ANTC	4/22-4/25	22名(役員4名、選手18名)		—
	第2回 ANTC	5/25-5/29	22名(役員4名、選手18名)		—
	第3回 ANTC	6/24-6/30	22名(役員4名、選手18名)		—
	第4回 ANTC	7/10-7/15	22名(役員4名、選手18名)		—
	第5回 ANTC	8/2-8/4	22名(役員4名、選手18名)		飯田純一郎
男子 U-16	第1回 ANTC	7/2-7/5	22名(役員4名、選手18名)		市川央人
	第2回 ANTC	8/27-8/30	21名(役員5名、選手16名)		市川央人
	第3回 ANTC	9/5-9/6	21名(役員5名、選手16名)		市川央人
女子 NA*	第1回 ANTC	5/21-5/29	15名(役員3名、選手12名)		
	第2回 ANTC	2/17-2/20	15名(役員15名、選手31名)		高野内俊也 佐野裕美
女子 U-20	第1回 ANTC	5/24-5/31	21名(役員3名、選手18名)		
	第2回 ANTC	6/12-6/21	21名(役員5名、選手16名)	有田忍	花岡美智子
女子 U-18	第1回 ANTC	6/25-6/30	24名(役員3名、選手21名)		
	第2回 ANTC	7/8-7/15	26名(役員3名、選手23名)		—
	第3回 ANTC	8/31-9/5	20名(役員5名、選手15名)	貝沼圭吾	宿利政生
女子 U-16	第1回 ANTC	6/23-6/26	20名(役員4名、選手16名)		内田春菜
	第2回 ANTC	8/24-8/27	20名(役員4名、選手16名)		内田春菜

* : NA はナショナルアカデミーの略

6) ドクター・トレーナー帯同 (遠征・大会)

チーム名	遠征・大会名	日 程	場 所	ドクター	トレーナー
男子代表	日韓代表国際交流 定期戦 2013	5/27-5/29	韓国		飯田純一郎
女子代表	日韓代表国際交流 定期戦 2013	5/27-5/29	韓国		高野内俊也 佐野裕美
男子 U-22	第1回東アジア U-22 選手権	5/29-6/5	韓国		永井正之
女子 U-22	第1回東アジア U-22 選手権	5/29-6/5	韓国		佐野裕美
女子 U-20	第12回女子ジュニアアジア選手権	6/21-7/1	カザフスタン	有田 忍	花岡美智子
女子 U-16	第17回日韓スポーツ交流(派遣)	6/26-7/1	韓国		内田春菜

男子代表	第 18 回ヒロシマ国際	7/24-7/29	日本・広島県		飯田純一郎
女子代表	第 17 回ヒロシマ国際	7/24-7/29	日本・広島県		高野内俊也
男子代表	欧州遠征	7/29-8/20	フランス ポルトガル		大岡恒雄
女子代表	欧州遠征	7/29-8/11	ドイツ デンマーク		高野内俊也
男子 U-19	第 5 回男子ユース世界選手権	8/4-8/25	ハンガリー		飯田純一郎
男子 U-16	日韓スポーツ交流 2013 (派遣)	8/30-9/5	韓国		市川央人
男子 U-16	日韓スポーツ交流 2013 (受入)	9/6-9/11	日本・東京都		市川央人
女子 U-16	第 17 回日韓スポーツ交流(受入)	10/10-10/15	日本・愛知県		内田春菜
女子代表	大会直前欧州遠征 第 21 回女子世界選手権	11/29-12/4 12/4-12/23	フランス セルビア	永澤雷太	高野内俊也
男子代表	第 16 回男子アジア選手権	1/20-2/8	バーレーン	井本光次郎	飯田純一郎

7) JOC ジュニアオリンピックカップ大会

男子優勝：茨城県選抜 女子優勝：愛知県選抜

オリンピック有望選手の選考

男子 該当者無し

女子 安藤かよこ（愛知県選抜：上野中学校）

8) 日本代表チーム

(1)男子代表が初の大会参加となるアジア選手権に臨んだが、9 位という結果で終わり世界選手権の出場はならなかった。

(2) 女子代表が世界選手権に出場。結果は前回と同じ 14 位であったが、新ディフェンスシステムが機能し、日本独自の戦術が確立しつつある。

(3)アジア選手権の結果を受け男子代表監督の辞意を承諾した。

(4)大会の成績は次のとおりであった。

日韓定期戦（男・女）

5 月 28 日(火) 開催地 韓国・ソウル特別市 SK ホール

男子 日本代表 24 (10-14, 14-15) 29 韓国代表

女子 日本代表 23 (12-11, 11-15) 26 韓国代表

男女とも新チームになって初の韓国戦。それだけにお互い様子を見ながらの対戦となった。結果男女とも敗戦であったが、ある程度の手応えが感じられる内容であった。これからリオ予選まで韓国との戦いは特に神経を使うものとなる。

第 17 回ヒロシマ国際（男・女）

7 月 26 日(金)～28 日(日) 広島市

男子 日本代表、湧永製薬、カザフスタン代表

女子 日本代表、広島メイプルレッズ、カザフスタン代表、中国江蘇省

男子順位 1:日本代表、2:湧永製薬、3:カザフスタン代表

女子順位 1:日本代表、2:広島メイプルレッズ、3:中国江蘇省、4:カザフスタン代表

男女とも日本代表が優勝、地元日本リーグチームが 2 位になるなど海外勢の不出来が目立った大会となった。日本代表は終始安定した試合運びが出来ていた。

第 21 回女子世界選手権

12 月 6 日(金)～22 日(日) セルビア・ベオグラード他

参加国

A 組 モンテネグロ、オランダ、フランス、韓国、コンゴ、ドミニカ

B 組 デンマーク、ブラジル、セルビア、中国、日本、アルジェリア

C 組 ノルウェー、ポーランド、アンゴラ、スペイン、アルゼンチン、パラグアイ

D組 ハンガリー、ドイツ、ルーマニア、チェコ、チュニジア、オーストラリア
日本は予選リーグ2勝3敗、B組4位で決勝ラウンドに進出、A組1位のフランスと対戦、27-19で敗退し、最終順位は前回と同じ14位。日本は日本独自となる新ディフェンスシステムで挑戦。これがことごとく機能し、セルビア、ブラジル、デンマークに対し僅差の勝負まで持ち込むことができた。ここから勝ち切るためには課題も多いが、大きな手応えを得た大会となった。

予選リーグ 日本 26-28 セルビア、日本 25-29 デンマーク、日本 20-24 ブラジル、
日本 33-27 中国、日本 32-23 アルジェリア

最終結果 優勝:ブラジル、2位:セルビア、3位:デンマーク、4位:ポーランド、5位:
ノルウェー、6位:フランス、7位:ドイツ、8位:ハンガリー、9位:スペイン、
10位:ルーマニア、11位:モンテネグロ、12位:韓国、13位:オランダ、14
位:日本、15位:チェコ、16位:アンゴラ、17位:チュニジア、18位:中国、
19位:アルゼンチン 20位:コンゴ、21位:パラグアイ、22位:アルジェリア、
23位:ドミニカ、24位:オーストラリア

第16回男子アジア選手権

1月25日(土)~2月6日(木) バーレーン・マナーマ

参加国

A組 韓国、サウジアラビア、イラン、ウズベキスタン、中国、バーレーン

B組 カタール、日本、UAE、クウェート、イラク、オマーン

初戦のクウェートに敗退後、リズムを掴みきれないままオマーンにも敗退するなど、9位という成績となった。新チーム結成後初の大会参加であることなどを考慮しても、中東特有の体重を活かした1対1が守れない、パワープレー時の得点率が5割を切るなど、戦術的にも見直しが必要である。

予選リーグ 日本 26 (16-14, 10-14) 28 クウェート
日本 35 (16-11, 19-15) 26 UAE
日本 22 (11- 8, 11-15) 23 オマーン
日本 31 (16-10, 15-12) 22 イラク
日本 26 (15-15, 11-18) 33 カタール

順位決定戦 日本 41 (18- 7, 23- 5) 12 ウズベキスタン
日本 28 (17-11, 11- 9) 20 イラク

最終結果 優勝:カタール、2位:バーレーン、3位:イラン、4位:UAE、5位:韓国、6位:
サウジアラビア、7位:クウェート、8位:オマーン、9位:日本、10位:イラク、
11位:中国、12位:ウズベキスタン (上位4チームは世界選手権に出場)

9) under 代表チーム

- (1)新設したナショナルアカデミー(NA)であるが、女子については次世代と、代表との連動ができつつあり有益な活動ができたが、男子についてはU-22の活動にとどまった。
- (2)年齢カテゴリー別の体制でNTS・JHAジュニアアカデミーと連携して、発掘・育成・強化へと連動した計画的な選手の養成ができた。
- (3)カテゴリー強化合宿などによって指導育成した結果、大会の成績は次のとおりであった。

第1回U-22東アジア選手権(男女)

5月30日(木)~6月4日(火) 韓国・天安市

男子 日本、韓体大(韓国) 慶照大(韓国)、中国、チャイニーズタイペイ、マカオ

女子 日本、韓体大(韓国) 中国、香港、チャイニーズタイペイ

男子結果 1:韓体大 2:慶照大 3:日本 4:チャイニーズタイペイ 5:中国 6:マカオ

女子結果 1:韓体大 2:日本 3:中国 4:チャイニーズタイペイ 5:香港

当初、東アジアの学生選手権ということであったが、他国の事情で急遽U-22の大会に

変更され、日本としては急造チームで対応した。残念ながら男女とも韓国の単独大学に敗れたが、技術云々よりフィジカルの違いが大きい。

第12回女子ジュニアアジア選手権兼2014WC予選

6月23日(日)~29日(土) カザフスタン・アルマトイ

参加国 韓国、中国、ウズベキスタン、日本、カザフスタン 5ヶ国

結果 準優勝 2014年世界選手権出場権獲得

5ヶ国による総当り。ホテル事情、食事情が悪いなど厳しい環境。日本はオープニング前に韓国と対戦し18-27で敗退。もう少しベストの状態でも臨ませたかった。その他のゲームは落ち着いたプレーで力を発揮し勝利することができた。もう少し合宿回数を増やすなどチームとしての完成度を高められれば、韓国との差も点数ほどではない。

第5回男子ユース世界選手権 17位

8月9日(金)~23日(金) ハンガリー 参加24ヶ国

予選を勝ち抜いての世界選手権出場は男子ユースとして初。東京五輪に向けても大変期待のかかる世代であるが、世界戦の厳しさを思い知らされた形となった。世界のユースは更に大型化されており、アジア予選で成功した6:0DFも機能させてもらえなかった。特にフィジカルの違いがこの世代では特に顕著で、高校からのフィジカル強化に向け対策をとらねばならない。攻撃においては大きさより俊敏性を活かすことによって活路を見いだせた。

予選リーグ 日本 36-38 エジプト、日本 27-39 デンマーク、日本 29-37 セルビア、
日本 37-24 チリ、日本 23-29 ベラルーシ 予選リーグ5位

順位決定戦 日本 43-31 チュニジア

17位決定戦 日本 42-36 アルゼンチン プレジデントカップ受賞

最終結果 優勝:デンマーク、2位:クロアチア、3位:ドイツ、4位:スペイン、5位:ノルウェー、6位:スウェーデン、7位:セルビア、8位:スロベニア、9位:ブラジル、10位:ハンガリー、11位:ルーマニア、12位:ベラルーシ、13位:フランス、14位:エジプト、15位:カタール、16位:オーストリア、17位:日本、18位:アルゼンチン、19位:チュニジア、20位:ベネズエラ、21位:韓国、22位:アンゴラ、23位:ガボン、24位:チリ

第5回女子ユースアジア選手権兼2014WC予選

9月7日(土)~15日(日) タイ・バンコク 参加7ヶ国

参加国 韓国、日本、カザフスタン、イラン、中国、ウズベキスタン、タイ

最終日、優勝をかけて韓国と対戦。日本選手の中にも十分韓国と渡り合える選手がいるが、まだチームとしての練習量の差が大きい、特に国内でゾーンディフェンスを引いている場合1対1で韓国のフェイントに対応できないケースが多い。韓国はどの世代もセンターに有能な選手を配置しているが、戦術が見えているだけに日本のDFバリエーションを増やしたい。

結果 日本 49(23-8, 26-7) 15 イラン

日本 42(23-11, 19-11) 22 タイ

日本 39(22-18, 17-16) 34 カザフスタン

日本 47(21-5, 16-2) 7 ウズベキスタン

日本 43(25-12, 18-10) 22 中国

日本 29(14-22, 15-17) 39 韓国

最終結果 優勝:韓国、2位:日本、3位:カザフスタン、4位:ウズベキスタン、5位:中国、
6位:タイ、7位:イラン 2014年世界選手権出場権獲得

日韓スポーツ交流2013(男子)

派遣 8月30日(金)~9月4日(水) 韓国大田市

受入 9月6日(金)~11日(水) 東京 ANTC

親善試合結果 日本 19-23 韓国 (韓国開催)
日本 46-19 韓国 (日本開催)

第16回日韓スポーツ交流(女子)

派遣 6月26日(水)～7月1日(月) 韓国慶南市
受入 10月13日(日)～15日(火) 愛知県名古屋市
親善試合結果 日本 16-22 韓国 (韓国開催)
日本 23-17 韓国 (日本開催)

10) 分析活動および体力向上策

情報科学委員会活動として、国立スポーツ科学センターと共同して、ITCを活用した映像データライブラリを構築した。分析活動においては、試合時の基本的な分析項目の再検討をおこなった。味の素ナショナルトレーニングセンターの競技団体毎の体力向上策の一環として、体力測定モデル化を推進した。

11) 医事活動および医科学調査研究

国立スポーツ科学センターの協力を得て各代表カテゴリーの選手のカルテ化したデータベースのシステム構築を推進した。

第5回アジア女子ユース選手権帯同時に尿比重と疲労度の関係を調査研究した(機関誌 ハンドボール No.540 28 DEC. 2013)。結論として尿検査によるコンディションチェックは有用であると判断されたため、今後精度を高め各カテゴリーの全日本の合宿・遠征にてその検証を行う予定である。

アンチ・ドーピング特別委員会と合同にてアンチ・ドーピング活動を行った。その結果報告を、ハンドボール機関誌(機関誌 ハンドボール No.535 28 18-19 MAY. 2013)、スポーツイベント・ハンドボール(2013年の1年間連載)、第18回ヨーロッパスポーツ科学会議(ECSS)、第24回日本臨床スポーツ医学会(2013年)で行った。さらに、日本協会ホームページ内に「日本協会ドーピング防止啓発ページ」を作成してハンドボールのドーピングに関する悩みを解決する活動を行った。

井本光次郎先生(医事委員)が2013年度より開始され取得まで2年間を要する「IOCスポーツドクター」の研修を開始。

《発掘・育成》

(1)JHA ジュニアアカデミー(育成活動報告)

第1回 期日:5月8日(水)～12日(日)(高校生男女)

場所:味の素ナショナルトレーニングセンター(ANTC)

参加:スタッフ5名、選手34名 合計39名

内容:個人の能力を最大限活かすための基礎トレーニングを中心に行う。

またミーティングの際にも、JOC 専門スタッフによるコミュニケーションスキル、チームビルディングスキル等の知的スキルアップトレーニングも行う。

個人面談を行い、アカデミーでの個人の意欲、目標などの確認を行う。

第2回 期日:7月5日(金)～9日(火)(高校生男女)

場所:味の素ナショナルトレーニングセンター(ANTC)

参加:スタッフ4名、選手47名 合計51名

内容:個人フィジカルトレーニングのレベルアップを中心にトレーニング

またミーティングの際にも、JOC 専門スタッフによるコミュニケーションスキル、チームビルディングスキル等の知的スキルアップトレーニングも行う。

第3回 期日:8月25日(日)～28日(水)(中学生男女)

期日:8月28日(水)～9月1日(日)(高校生男女)

場所：味の素ナショナルトレーニングセンター（ANTC）

参加：スタッフ9名、選手77名 合計86名

内容：個人の能力を最大限活かすための基礎トレーニングを中心に行う。

また中学生には、ミーティングの際にも、JOC 専門スタッフによるコミュニケーションスキル、チームビルディングスキル等の知的スキルアップトレーニングも行う。個人面談を行い、アカデミーでの個人の意欲、目標などの確認を行う。

第4回 期日：10月10日(木)～14日(月)（高校生男女）

場所：味の素ナショナルトレーニングセンター（ANTC）

参加：スタッフ6名、選手51名 合計57名

内容：個人の能力を最大限活かすための基礎トレーニングを中心に行う。

第5回 期日：11月1日(金)～11月5日(火)

場所：味の素ナショナルトレーニングセンター（ANTC）

参加：スタッフ5名、選手34名 合計39名

内容：個人フィジカルトレーニングのレベルアップを中心にトレーニング

個人、組織としてのDFの守り方、方向性の徹底の理解、OF 個人技能、組織戦術の理解。

第6回 期日：12月12日(木)～16日(月)

場所：味の素ナショナルトレーニングセンター（ANTC）

参加：スタッフ7名、選手43名 合計50名

内容：個人、組織としてのDFの守り方、方向性の徹底の理解、OF 個人技能、組織戦術の理解。

第7回 期日：2月8日(土)～15日(土)

場所：味の素ナショナルトレーニングセンター（ANTC）

参加：スタッフ6名、選手36名 合計42名

内容：個人フィジカルトレーニングのレベルアップを中心にトレーニング

個人、組織としてのDFの守り方、方向性の徹底の理解、OF 個人技能、組織戦術の理解

個人面談を行い強化育成また個人の目標の確認を行った。

第8回 期日：3月8日(土)～16日(日)

場所：味の素ナショナルトレーニングセンター（ANTC）

参加：スタッフ5名、選手30名 合計35名

内容：個人、組織としてのDFの守り方、方向性の徹底の理解、OF 個人技能、組織戦術の理解。

個人面談を行い強化育成また個人の目標の確認を行った。

日本リーグプレーオフを視察、レベルの高い試合を見る事で学ぶ事ができた。

(2)JHA ジュニアアカデミー（発掘活動報告）

第64回全日本高校選手権大会大会視察

期日：7月30日(火)～8月4日(日)

場所：佐賀県神埼中央体育館ほか

内容：全国高校選手権大会に参加している監督、コーチとJHA ジュニアアカデミーについての説明と意見交換を行ってきた。

また、選手発掘に力を入れ、全国の指導者からも地方で活躍している大型選手の情報も多く入手できた。

第42回全国中学校大会大会視察

期日：8月20日(火)～23日(金)

場所：愛知県豊田市 スカイホール豊田

内容：全国中学校大会に参加している監督、コーチと JHA ジュニアアカデミーについての説明と意見交換を行ってきた。

男子 56 回女子 49 回全日本学生選手権視察

期日：11 月 23 日(土)～27 日(水)

場所：山梨県小瀬スポーツセンターほか

内容：全国学生選手権に参加している監督、コーチと JHA ジュニアアカデミーについての説明と意見交換を行ってきた。

試合を通じて、大型選手の発掘を行ってきた。

第 37 回全国高校選抜大会視察

期日：3 月 23 日(火)～30 日(日)

場所：愛知県豊田市 スカイホール豊田ほか

内容：全国高校選抜大会に参加している監督、コーチと JHA ジュニアアカデミーについての説明と意見交換を行ってきた。

また、平成 26 年度アカデミー選手発掘も行ってきた。

6. 機関誌発行に関する事業

1) 年 8 回の発行維持

1 ヶ月平均発行部数 約 5,000 部

(年 1 回登録の小学生チームへ無料配布 約 380 部)

2) 広告協賛 13 社 毎号掲載は 12 社 (伊藤超短波を除く)

3) 機関誌の内容を更に充実

(1)自らの取材による記事、及びインタビュー取材による記事の掲載

(2)各委員会の連載継続 (医事委員会・審判委員会・学校体育委員会等)

(3)インターネット情報との密接な連携の継続

(4)企画記事

・欧州にて活動選手からの寄稿、欧州で開催のコーチング会議などに関する会議報告

・2020 東京五輪に向けた連載企画の検討着手

7. 企画に関する事業

1) プロジェクト事業の協力、推進

2) 2019 年女子世界選手権日本招致を企画し、熊本県協会と共に活動し招致に成功した

3) 2020 年東京オリンピック招致に協力した

4) 「2019、2020 プロジェクト」を立ち上げ「強化戦略プロジェクト」の活動を開始した

5) 日本選手権大会平成 27 年度実現に向けて活動した

8. 広報に関する事業

1) 広報

(1)広報年間スケジュールに基づき活動を行った

定期記者発表 2 回(日本リーグ、日本リーグプレーオフ)

臨時記者発表 3 回、代表合宿メディア公開 2 回

プレスリリース(メールリリースも含め)91 回

(男女日本代表情報、各カテゴリー国際大会、国内大会他)

- (2)インターネット発信(ホームページ)の充実を図った
- (3)マスコミ(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ライター他)の取材調整を行った(47件)
- (4)大会写真撮影にカメラマンを3大会派遣
- (5)第21回女子世界選手権壮行会においてマスコミを招いて懇親を図った
- (6)平成26年度ホームページリニューアルの検討を開始した

2) インターネット

- (1)日本協会ホームページの充実を図った
情報発信のスピード化を推進した(大会結果速報用に掲示板を利用した)
更新頻度の増加を図った
- (2)メディアへの露出についてホームページを通じて告知した
- (3)コンテンツ作成の効率化と内容の充実に努めた

9. 財務・会計に関する事業

平成25年度も財政状況が厳しい状況で、緊縮財政を組まなければならない状態であった。事業執行においては、効率良い運営を推進する方針で臨んだ。収入面では、マーケティング事業収入や寄付金収入が予算額を下回ったものの、登録料の見直しにより登録金収入が増収となったことや検定料収入の増収により予算額を上回る結果となった。支出面では、各事業の見直し、効率的な予算執行、補助金の効率的な運用に取り組んだことにより事業活動収支差額は60,253千円となり、特定費用準備資金として次年度アジア選手権と世界選手権出場準備資金を含む59,000千円積立てたことにより当期収支差額は1,253千円、次期繰越収支差額は63,784千円となった。

10. 日本リーグに関する事業

1) 総務部 = 円滑で活気に満ちた大会運営の基盤構築

- (1) 集客数の改善に効果的な施策の1つとして、集客指定試合を設定した。この結果、2,000名を超える集客会場が増えた。
- (2) 開催地責任者・GM合同会議を開催、講師として東京ヴェルディ1969フットボールクラブ株式会社 事業部部長・佐々木達也氏を招き、主に東京ヴェルディの集客への取り組みについて講演を行った。
独自性のある開催地、集客の優れた開催地を表彰した(沖縄県協会、熊本県協会、金沢市協会、静岡県協会、長崎県協会)。
- (3) 社会貢献活動としてJCV(世界の子供にワクチンを日本委員会)活動を支援した。また、各地での講習会への各チーム派遣や日本リーグ開催に合わせた開催地での講習会へ各チームが積極的に参加した。
- (4) 円滑な大会運営にむけた取り組みとして、大会運営マニュアルを作成、開催各地へ配布した。

「チャレンジディビジョン」トップリーク参入チームの発掘

- (1) 第5回男子チャレンジディビジョンを開催した。
(大同大学、トヨタ自動車、HONDA、HC和歌山、OSAKA SELECION、FST、TOYAMA 選抜、八光自動車工業、HC春日井、東北福祉大学、HC・MKA奈良、同朋クラブ)
- (2) FSTへのトップリーク参入への支援活動実施中。

2) 広報部 = メディア、ファンに対する情報発信

- (1) 40 回大会記念プロジェクトを発足、具体的な実施事項の検討に入った。
- (2) 貼付スペースに合わせてポスターを 2 種 (B1、B2 サイズ) 作成した。
- (3) インターネット中継数を増やすために業者と打合せ、課題が明確になった。
- (4) 試合開催情報の充実化をはかるために、ホームページの更新頻度を増やした。
- (5) リーグ開幕前、プレーオフ前に記者発表を実施した
- (6) 各チームが、地元 TV、ケーブル TV、地方紙とコンタクトした。
- (7) プレーオフ TV 中継は、J スポーツで全試合を放映 (生中継及び録画放映) した。

3) マーケティング部 = リーグ機構の収益拡大

- (1) 新規スポンサー 2 社を獲得、既存スポンサー 5 社の増額を獲得した。
- (2) リーグ各チームのマーケティング一括管理に向けて準備を進めた。

4) 競技部 = レフェリーの技術向上及びチームとの共通理解

- (1) JHL レフェリー講習会を日本協会レフェリー講習会と合同で開催、チーム、レフェリーの統一見解をはかった。
- (2) JHL オフィシャル研修会の開催は経費等の関係で見送った。
- (3) チャレンジディビジョンに若手レフェリーを招聘、実技を通じた研鑽を実施できた。
- (4) 第 10 回東アジアクラブ選手権(韓国)にプレーオフ優勝チームを派遣した。
(男子：大同特殊鋼 3 位、女子：オムロン 3 位)
- (5) 韓国リーグにレフェリー (本田・田淵ペア) を派遣、4 試合を担当した。
- (6) 日本トップリーグ連携機構主催の審判研修会へ JHL レフェリー 2 名が参加した。
- (7) 日本トップリーグ連携機構主催の若手研修会へ各チームより合計 10 名が参加した。

5) スケジュール部 = 強化部と連携を測ったスケジュールの設定

- (1) 土日の集中開催により、運営経費軽減を重視したスケジュールを組んだ。
- (2) 活性化及び観客動員に結びつくよう、好カードを後半に設定した。
- (3) 第三地域への公募を拡大、14 県で開催した。
- (4) 40 周年記念大会に合わせて、国際スケジュールを踏まえ日本協会強化部と連携しながら日程調整を実施している。

6) 記録部 = 情報発信業務の効率化

- (1) ホームページの写真のスライド化、動画の掲載、スポンサーバナー掲載、チケット販売を新たに追加した。
- (2) リーグ戦の試合結果を担当者が携帯から前半終了時点から直接ウェブサイトに掲載できるようにし、情報発信を早く、効率的に行うようにできた。

7) JHL ジュニアリーグ = 全チームがジュニア設立により日本リーグの活性化

- (1) 第 3 回 JHL ジュニアリーグを開催した。
(北陸電力、大同特殊鋼、北國銀行、飛騨高山ブラックブルズ岐阜、HC 名古屋、トヨタ自動車東日本、豊田合成、琉球コラソン、湧永製薬、オムロン、広島メイプルレッズ、トヨタ紡織九州、ソニーセミコンダクタの各ジュニアチーム)
- (2) プレーオフにて優勝決定戦を実施、白熱した試合を展開し、初めて両チーム優勝となった。(男子優勝：北陸電力、琉球コラソン、女子優勝：オムロンの各ジュニアチーム)
- (3) 次年度以降、持ち回りで開催することとした。

8) 会議・研修会等

- (1) GM会議を6月に行い、事業報告、事業計画の説明、大同特殊鋼、オムロン両チームよりジュニアの取り組みについて事例発表を行っていただいた。
- (2) オーナー懇談会を6月に行い、事業報告、事業計画の説明、橋本聖子JOC強化本部長より「スポーツ基本法とトップリーグの役割」についてご講演いただいた。
- (3) 日本リーグレフェリー研修会を6月に日本協会全国大会と合同で「全日本大会および日本リーグ担当レフェリー研修会」として行い判定の統一を図った。
- (4) 開催地責任者・GM合同会議を7月に行い、シーズンの取り組み、運営マニュアルの説明を行い、開催地、チームが集客対策、ファンサービス、広報活動について研修を行い、Jリーグ東京ヴェルディ佐々木事業部長より講演をいただき、集客アップに向けて取り組みを行う。
- (5) コーチ研修会を8月に行い、「判定の統一を目指して」を日本協会審判部安田氏に講演いただいた。「指導者としての倫理順守」を市原スーパーバイザーに講演いただき日本リーグとしてパワハラ・セクハラ撲滅を宣言した。

1.1. 総務に関する事業

1) 定例の諸会議の開催について、開催場所の選択や人員・規模等を勘案し会議費や日程の効率的運営の推進を図った。

- (1) 評議員会 6月8日(東京)
- (2) 理事会 6月15日(東京) 2月8日(東京)
- (3) 常務理事会 4月13日(東京) 5月11日(東京) 7月13日(東京) 9月14日(東京)
11月9日(東京) 1月11日(東京) 3月15日(東京)
- (4) 本部長会 10月19日(東京)
- (5) 全国理事長会議

- 第1回：10月2日(水) 東京都江戸東京博物館会議室で東京国体競技開始前日に開催。上半期の事業報告行われた。また日本選手権、クラブ選手権、U-12 試合形式等についてディスカッションを行った。同会終了後会場を変え懇親会が行われた。
- 第2回：2月9日(日) 東京にて開催。担当常務理事より主な実施事業について報告が行われた。参加者によるフリーディスカッションを行った。

2) コンプライアンス委員会の立ち上げと倫理委員会の常設化

ハンドボール協会が定款に定められている事業活動、業務を執行する際に遵守すべき法律、内部規定について洗い出し、コンプライアンス委員会を立ち上げた。協会事務局内に相談窓口を設置し、スポーツ界を取り巻くコンプライアンス事項に対応している。

現存する倫理規定を見直し倫理委員会を常設化し、相談窓口に寄せられる事項に対応した。平成25年度は2事項に対応した。

3) 環境委員会

- (1) スポーツと環境保全問題について、主要大会において会場にポスターやバナーの掲示をし、環境問題の啓発に努めた
- (2) ケールビズの実施
- (3) 「チャレンジ25キャンペーン」で配信される News Leter を都道府県協会・連盟関係者にその都度転送し、啓発に努めた

4)地方協会へ情報伝達の迅速化に努めた

1 2 .「がんばれハンドボール 20 万人会」サポート会に関する事業

1) 平成 25 年度サポート会員総数（平成 26 年 3 月 31 日現在（カッコ内は前年比）

特別会員	4 名 (+1)
グランド会員	190 名 (- 19)
ファミリー会員	47 名 (- 4)
ジュニア会員	94 名 (+ 81)
都道府県ファミリー会員	209 名 (- 64)
都道府県グループ会員	3,594 名 (+133)
総 数	4,138 名 (+128)

2) 推進活動

- (1)都道府県ファミリー会員・グループ会員入会の促進
- (2)大会会場における会員の優先席設定

3) 事務局

- (1)毎月の入会・更新作業
- (2)打合会の開催・事務処理

1 3 . マーケティングに関する事業

1) マーケティング収入 目標 25,000 千円

協賛金 24,293 千円(日本リーグを除く)

2)その他の収入

- (1)機関誌広告料収入 3,002 千円
- (2)寄付金 300 千円
- (3)物品販売 525 千円

3) オフィシャルスポンサー、オフィシャルサプライヤーの確保と拡大

平成 25 年度 7 社

4) 既協賛企業の確保と新規協賛企業の拡大

継続協賛企業 31 社 / 新規協賛企業 3 社

5) バリューアップ活動

- (1) スポンサー・マスコミ感謝の集いと女子世界選手権壮行会を併せて実施
- (2)ハンドボールマンゴルフ大会を実施
- (3)界友会の実施に協力する
- (4)協会主催大会について開催都道府県協会、連盟にマーケティング活動の指導を行う
- (5)JOC、日本トップリーグ連携機構との連携協力でマーケティング力向上を図った